

**一般社団法人 日本鉱物科学会**  
**2025 年度 第 1 回臨時理事会 議事録**

- 【1】 招集年月日: 2025 年 11 月 17 日(月)
- 【2】 開催年月日及び時刻: 2025 年 12 月 1 日(月) 14 時 00 分~16 時 10 分
- 【3】 開催場所: 広島大学理学部 井上研究室  
739-8526 広島県 東広島市 鏡山 1-3-1  
(ZOOM Meeting によるオンライン会議)
- 【4】 理事総数および定数: 総数 22 名, 定足数 12 名
- 【5】 出席理事数: 20 名 全員 Zoom 出席  
会 長: 井上 徹  
副会長: 中村 美千彦  
理 事: 秋澤 紀克, 安東 淳一, 大藤 弘明, 鍵 裕之, 片山 郁夫, 栗林 貴弘, 黒澤 正紀  
佐久間 博, 瀬戸 雄介, 辻森 樹, 土屋 旬, 富岡 尚敬, 中野 伸彦,  
M. Satish-Kumar (マドスーダン・サティッシュ・クマール), 三河内 岳, 森下 知晃  
芳川 雅子, 永嶌 真理子
- 【6】 欠席理事数: 2 名  
DAS Kaushik (ダス カウシク), 河上 哲生
- 【7】 出席監事: 永井隆哉
- 【8】 オブザーバー: (理事以外の幹事, 委員長等報告事項報告者)  
出席: 川野 潤 (会計副幹事), 興野 純 (和文誌編集幹事),  
阿部 なつ江 (会員幹事, 地球惑星科学連合連絡担当委員),  
斉藤 哲 (広報幹事), 秋澤 紀克 (地球惑星科学連合学会選出プログラム委員・正)
- 【9】 議事概要

井上理事の発議により議長を理事の互選で選ぶことになり, 安東淳一理事が議長に選出された。次に, 決議定足数と開始時刻における出席理事数の確認を行い, 理事 20 名の出席を確認したので, 定款 30 条により理事会が成立した。このことを受け, 安東議長は WEB 会議システム(ZOOM Meeting)を利用したオンライン会議としての理事会開会を宣言した。また, WEB 会議システムの通信状況(出席者全員の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり, 適時的確な意見表明が互いにできる状況)に問題がないことを確認し, 2025 年度第 1 回臨時理事会を開始した。

会議に先立ち, 理事の互選で小松一生庶務副幹事が書記として選出された。

## I. 報告事項

### 1. 2025 年年会（山口大会）の決算報告（瀬戸行事幹事）

瀬戸行事幹事より、2025 年年会（山口大会）の決算について報告があった。収入については、参加登録費、懇親会費、広告・展示収入に加え、山口観光コンベンション協会からの助成金を含めて計上していることが説明された。なお、同協会からの宿泊助成金およびシャトルバス助成金については、理事会開催時点では申請手続き中であるものの、交付される見込みが高いことから収入に含めているとの説明があった。

支出については、講演プログラムシステム利用料、オンライン決済手数料、ポスターボード設営費、アルバイト代、懇親会費等を計上し、収支は約 127 万円の黒字となったことが報告された。黒字となった主な要因として、地方開催であったにもかかわらず参加者数および懇親会参加者数が予想を上回ったこと、多数の広告・展示出展を得られたこと、ならびに山口観光コンベンション協会からの助成を受けられたことが挙げられた。

これに対し、黒字を計上した場合でも山口観光コンベンション協会からの助成金を受け取ることに問題はないかとの質問があった。これに対し、現時点では問題なく受給できる見込みであり、申請担当者にも確認済みである旨の説明があった。

また、安東庶務幹事より、年会で生じた黒字を、今後予定されている会員区分変更等に伴う会費収入減少の補填に充てることが可能かとの質問があった。これに対し富岡会計幹事より、年会は独立会計で運営されているものの、最終的な収支は一般会計に繰り入れられるため、黒字分は一般会計の資金として活用され、会費収入減少への補填にも充当されることが説明された。

### 2. 2026 年年会（東京大会）に関して（瀬戸行事幹事）

瀬戸行事幹事より、2026 年年会（東京大会）の準備状況について報告があった。東京大会は 2026 年 9 月 24 日～26 日に東京大学本郷キャンパスで開催予定であり、同日程で開催される火山学会との共催セッションについて協議を行ったことが報告された。共催セッションは実施する方針とし、開催日時は大会初日午後を第 1 候補、最終日午後を第 2 候補とすること、また両会場を Zoom で接続して実施することが説明された。

これに対し片山理事より、招待講演者数に関するガイドラインとの関係から、共催セッションをシンポジウム形式として実施することも一案ではないかとの意見があった。これに対し瀬戸行事幹事より、形式上はシンポジウムとする可能性もあるが、実質的な内容は大きく変わらないとの説明があった。

続いて鍵 LOC 委員長より、会期および会場の決定状況、近隣大学の学部学生は無料で参加可能とすることなど、東京大会の準備状況について報告があった。

### 3. SMOOSY 会員管理システムの A-Pass システムへの紐付けについて（富岡会計幹事）

富岡会計幹事より、SMOOSY 会員管理システムと Confit 大会システムを共通アカウントで利用できる A-Pass システムへの移行について報告があった。SMOOSY アカウントを A-Pass へ紐付けることにより、SMOOSY マイページから Confit 大会サイトへのシームレスなアクセスが可能となるほか、会費納入状況に応じた大会参加登録の制御が可能となることが説明された。

移行作業は 2026 年 2 月にアトラスおよび事務局により実施され、その後、各会員が個別にアカウント設定を行う予定であることが報告された。また、アカウント設定方法については、移行作業完了後にメールニュース等を通じて会員へ案内する予定であることが説明された。

### 4. 会員報告（阿部会員幹事）

阿部会員幹事より、2025 年度第 1 回定例理事会（2025 年 9 月 12 日）以降の会員動静について議事資料に沿って報告がなされた。

退会者 10 名（永年会員 1 名、シニア会員 1 名、一般会員 1 名、学生会員 7 名）。

学生会員から一般会員への変更 2 名

また、会費 2 年未納により資格停止となっていた一般会員 1 名について、未納会費納入後に退会手続きが完了したことが報告された。

この結果、2025 年 12 月 1 日現在の会員数は、871 名（2025 年 9 月 12 日定例理事会時点）－10 名（退会）＝861 名となった。

## 5. JMPS 現状報告（M. Satish-Kumar 英文誌編集幹事）

M. Satish-Kumar 英文誌編集幹事より、2025 年 9 月 12 日第 1 回定例理事会以降の投稿、編集および発行状況について、議事資料に基づき報告がなされた。

・2025 年投稿件数 33 件

編集状況：公開準備中 3 件、査読中 12 件、返却中 7 件

発行状況：

・120 巻 1 号電子ジャーナル

原著論文 21 編、Review 1 編、Letter 4 編、計 26 編、301 頁

・2025 年 9 月 12 日以降の電子ジャーナル公開状況として、120 巻 1 号に掲載された 3 編の論文が公開されたことが報告された。

2024 年の JMPS Impact Factor は 1.0 となり、前年の 0.9 から上昇したことが報告された。

## 6. GKK 現状報告（興野和文誌編集幹事）

興野和文誌幹事より、2024 年度第 1 回定例理事会(2025 年 9 月 12 日)以降、2025 年 11 月 20 日までの編集状況について議事資料に沿って報告された。

6-1. 編集状況報告（2025 年 9 月 12 日～2025 年 11 月 20 日まで）

(1) 発行状況: 54 巻 1 号電子ジャーナル

・原著論文「東北日本弧火山フロント、福島市南西部に分布する鮮新統～更新統「笹森山火山岩類」の地質学的・岩石学的研究」 安井 光大, 相澤 正隆, 井村 匠, 山田 哲也, 浅川 敬公

(2) 現在受理論文：なし

(3) 現在査読中論文：4 編（総説 [講義シリーズ], 受賞記念研究紹介, 短報, 原著論文）

さらに、2025 年 11 月 10 日に開催された 2025-2026 年度第 1 回 GKK 編集委員会の内容について報告があった。高校生・学部生向けの新たな投稿カテゴリーの創設について議論が行われ、現行の原著論文カテゴリーは投稿のハードルが高いことから、若手層が研究成果を論文として発表しやすい枠組みの必要性が指摘された。また、2026 年の JpGU 大会等で発表する高校生や学部生に対し、発表成果の投稿先として GKK を紹介していく方針が示された。併せて、本件は学会のジュニア会員制度との連携も重要であることが確認された。

## 7. 広報委員会報告（斎藤広報幹事）

斎藤広報幹事より、広報委員会の活動状況について議事資料に沿って報告がなされた。会員向けメールニュースの配信、学会ホームページの更新、公式 SNS (Facebook, X) および YouTube チャンネルを通じた広報活動を継続して実施していることが報告された。また、YouTube チャンネルでは新たに「鉱物さんぽ 国立科学博物館編」を公開したことが紹介された。

2025 年年会（山口大会）において、「激ムズ鉱物クイズ」と題したクイズ企画を実施したことが報告された。また、地学オリンピック参加者向け冊子「地球にわくわく未来ガイド」への学会紹介広告の掲載依頼を行ったことが報告された。

今後の活動予定として、文部科学省の科学技術週間に合わせた学会紹介特設サイトの公開、および JpGU2026 におけるブース展示を実施する予定であることが報告された。さらに、広報委員会の新体制および各担当について説明がなされた。

## 8. 将来企画委員会報告（中村委員長）

中村将来企画委員長より、会員制度の見直しに関する検討状況について報告がなされた。現在、①会員区分（ジュニア会員制度、シニア会員制度、ライフ会員制度、アマチュア会員制度）、②学生会員パック制度、③事務作業の増加・煩雑化への対応について検討を進めており、今後、将来企画委員会において Zoom 会議を開催し、具体的な制度設計を進める予定であることが説明された。

検討状況として、ジュニア会員制度については導入の方向で検討を進めており、会員サービスの内容や運営負担とのバランスを考慮しながら制度設計を行うことが報告された。また、学生会員パック制度については導入に前向きな意見が多い一方、会費収入の減少が見込まれるため、会員増加効果や会員管理の効率化等も含めて総合的に検討することが説明された。シニア会員の会費設定見直しについては財政的な影響が大きいことから慎重な検討が必要であり、ライフ会員制度やアマチュア会員制度についても併せて検討を進めることが報告された。

これに対し、学生会員パック制度の導入に伴う財政的影響や会員増加効果について意見交換が行われた。福岡会計幹事より、近年の学会財政は黒字基調で推移していることから、若手会員の確保に資する施策として検討可能であるとの説明があった。また、制度設計に必要な学生会員の在籍状況等のデータについて、事務局から提供することとなった。

## 9. 2026JpGU への本学会からのセッション提案

（地球惑星科学連合学会選出プログラム委員：秋澤委員）

秋澤委員より、2026 年 JpGU 大会における本学会提案セッションについて報告がなされた。岩石・鉱物・資源分野に関するセッションを提案し、採択されたことが報告された。また、本セッションは学部学生や大学院生を含む幅広い参加者が発表しやすい場とすることを目的として、日本語セッションとして提案したことが説明された。会期中は 2 コマが割り当てられる予定であり、できる限り同日に開催できるよう調整を進めていることが報告された。

## 10. JpGU 第 33 回学協会長会議の報告（井上会長）

井上会長より、JpGU 第 33 回学協会長会議について報告がなされた。

2026 年大会（JpGU-AGU2026）は、“Transformative Science for Life & Earth”をテーマとして開催され、すべてのセッションを AGU とのジョイントセッションとして実施すること、国際交流促進の観点から英語を主要

言語とする方針であることが説明された。また、ポスター発表ではオンライン掲示が必須となることや、大会期間中の各種イベントについて紹介があった。さらに、セッション採択状況について報告があり、採択された288セッションのうち英語セッションの割合が大幅に増加したことが説明された。

続いて、PEPS (Progress in Earth and Planetary Science) の活動状況について報告があった。PEPS は JpGU と参加学協会が協力して発行する学術誌であり、近年評価指標が向上していること、今後は海外からの投稿拡大を目指していることが紹介された。また、JpGU-AGU2026 に向けて特集号の企画が予定されており、各学協会に対してレビュー論文等の投稿協力依頼が行われる予定であることが報告された。

## 11. 会員情報の取扱いに関して（井上会長）

井上会長より、会員情報の取扱いについて報告がなされた。公認会計士から、理事が会員情報を閲覧できる体制を整備する必要があるとの指摘を受けており、今後の会員情報管理のあり方について検討を進めていることが説明された。

また、本学会では会員情報の収集・利用・管理に関するプライバシーポリシーが未整備であることから、他学会の事例を参考にプライバシーポリシー案を作成したことが報告された。今後、理事会等で内容を検討し、学会としての個人情報保護方針を整備していく予定であることが説明された。

## その他

### IMA2026 および IMA2030 について

大藤理事より、国際鉱物学連合 (IMA) の活動状況について報告がなされた。2026 年 8 月 20 日から 24 日にかけて中国・南京で開催予定の IMA2026 について、現在準備が進められており、セッション提案が行われていることが紹介された。また、日本からも複数の研究者が運営に参画していることが報告された。さらに、2030 年の IMA 大会については、カナダでの開催に向けて準備が進められていることが報告された。

## II. 審議事項

### 第 1 号議案 寄付金受け入れ体制の強化案について（富岡会計幹事）

富岡会計幹事より、寄付金受け入れ体制の強化案について説明がなされた。第 1 回定例理事会で指摘された寄付金受付時の業務委託費の問題を踏まえ、学会ウェブサイト寄付申込フォームを設置し、事務局への通知後に SMOOSY 上で請求処理を行う方式とする改訂案が提案された。また、寄付受付については、会員が随時寄付できる仕組みと、年数回の募集期間を設けて一括請求を行う仕組みを併用することで、利便性と業務委託費削減の両立を図る方針が示された。

審議の結果、SMOOSY を活用した寄付受付体制の整備を本提案の方向で進めることが承認された。また、具体的な制度設計及び運用方法の検討については、新たにワーキンググループを設置し、その検討に一任することが承認された。

なお、ワーキンググループの構成員は、会長、副会長、庶務幹事、副幹事、広報幹事、事務局及び鍵理事とすることが確認された。

### 第 2 号議案 新入会承認（阿部会員幹事）

阿部会員幹事より、一般会員 4 名の入会申請が紹介された。審議の結果、4 名すべて異議なく入会が承認された。

この結果、2025 年 12 月 1 日現在の会員数総数は 865 名（内訳 一般会員 522 名、シニア会員 168 名、学生会員 127 名、永年会員 39 名、名誉会員 9 名）で、2025 年 9 月 12 日の第 3 回定例理事会後より 6 名の減少となった。

### **第 3 号議案 各賞選考委員会委員の指名について（井上会長）**

井上会長より、渡邊萬次郎賞選考委員会委員について説明がなされた。2025 年度第 1 回理事会において承認済みの継続 2 期目委員 4 名に加え、新たに 1 期目委員 4 名を選任することが提案された。

審議の結果、渡邊萬次郎賞選考委員会委員として、以下の継続 2 期目委員 4 名および新任委員 4 名を承認した。

渡邊萬次郎賞選考委員会委員

継続 2 期目 4 名：掛川 武（委員長）、安東 淳一（理事）、森下 知晃（理事）、佐藤 努

1 期目 4 名： 鍵 裕之（副委員長、理事）、福士 圭介、下林 典正、川本 竜彦

### **第 4 号議案 選挙管理委員会委員の指名について（安東庶務幹事）**

安東庶務幹事より、次期役員選挙に係る選挙管理委員会委員として、横山 正 会員（広島大学、再任）、篠崎 彩子 会員（北海道大学、新任）及び松本 恵 会員（東北大学、新任）の 3 名を選任する提案がなされた。

審議の結果、提案どおり承認された。

### **第 5 号議案 会長・副会長候補者推薦委員会委員の指名について（安東庶務幹事）**

安東庶務幹事より、会長・副会長候補者推薦委員会委員として、河上 哲生 会員（委員長）、大藤 弘明 会員、辻森 樹 会員、富岡 尚敬 会員、永嶋 真理子 会員の 5 名を選任する提案がなされた。

審議の結果、提案通り承認された。

### **第 6 号議案 広報委員の増員について（安東庶務幹事）**

安東庶務幹事より、広報委員会の業務量増加に伴い、長瀬 敏郎会員（東北大、問い合わせ担当）、天谷 宇志 会員（産総研、HP 担当）を追加委員として選任する提案がなされた。

審議の結果、提案通り承認された。

### **その他**

瀬戸理事より、年会運営用キャッシュカードの利用限度額（40 万円）について、東京大会に向けて増額を検討している旨の報告があった。

**【10】 閉会**

閉会 以上の議事を終え，18 時 10 分に閉会した．

上記の決議を明確にするため，出席した会長，副会長及び監事がこれに記名押印する．

令和 7 年 9 月 日

会 長                  井上 徹                  印

副会長                中村 美千彦              印

監 事                  永井 隆哉                  印

(配布時押印省略)